

新型コロナウイルス感染症への対応をめぐる市民的論点 (6/4実施版)

市民による対話と調査を繰り返して論点整理。(要点：p7,12)

第89回 (令和4年6月30日)
新型コロナウイルス感染症対策
アドバイザリーボード

資料3-10

田中先生提出資料

行政・専門家による対応・情報発信への示唆

- 行政対応への評価：初期対話でネガティブでもインターネット調査をすると上昇
→ネガティブな「印象」を払拭する実直な広報の必要性。
- 「出口が見えない」感覚が市民のあいだで共有されてしまっている。
→概念だけでなく、実効感につながる手続き的な出口戦略（戦術）を示す必要性。
- 知識更新の遅れ：市民の論点の多くにはすでに解決・克服したものも多数。
→関心が低下しているだけに、アップデートされた情報について広報強化の必要。
 - ワクチン接種：ロジ評価への不満は低。いっぽう、3,4回目接種についての懐疑。
 - マスク着用：「考え方(5/25)」の周知は不足。考え方そのものは概ね受容。
 - 経済支援：（実態との関係の有無にかかわらず）不公平感が広がっている。

市民は「何がどう変化すれば日常に戻ったと感じられる」か？

- 過去への復帰：マスク着用停止、旅行の自由、感染対策の軽減
→政府による「キャンペーン」の終了が日常回復の証左、という意見も。
- 市民間でも温度差がある（飲み会の“復活”、全日出勤など）
- 「家族間の不和の解消」の指摘は重要。直接の介入メッセージは出さずとも、そこにつながる情報提供を意識する必要性。

さくり

スケッチ・ダイアログレポート

2022年6月

新型コロナウイルス感染症

への対応をめぐる

市民的論点

対話を通じた
問題の素描

奈良由美子（放送大学）／科学コミュニケーション研究所（さくり）

企画支援：JST-RISTEX研究開発プロジェクト「現代メディア空間におけるELSI構築と専門知の介入」（代表：田中幹人）

1 行政の対応に対する市民の評価

今後の見通しについて不安はあるものの、ポジティブに評価している。

2 対話の効果

1) 対話前はネガティブに評価していた2名は、対話とインターネット調査を通じて、ポジティブな評価へと変化した。

2) 対話によって知識を得たり、理解を深めたりすることを通じて、思いや考えを整理することは、参加者にとって有意義だけでなく、政策へ意味のあるフィードバックを得るためにも重要である。

3 市民的論点

1) 今後の見通し 日本はいつごろエンデミックに移行するのか、さまざまな意見がありよくわからないとの意見が多い。

2) 情報共有 日常的な感染状況や取り組みについての情報共有に対する評価は高い。

3) ワクチン ワクチン接種に関するロジスティクスに対する評価は高い。その反面、ワクチンに関する理解は進んでおらず、3回目、4回目の接種について懐疑的な声もある。

4) 経済支援 助成金などの経済支援については一定の評価がなされているものの、支援対象に対する納得感が持てない者もいる。

5) アルコール消毒 アルコールに対するアレルギーを持つ者に対する社会の理解が進んでいないとの声がある。

4 マスクの着用に関する市民の意見

1) マスク着用の考え方（第85回(令和4年5月25日)新型コロナウイルス感染症対策アドバイザリーボード）について、6名のうち4名は知っていたが、2名は知らなかった。

2) どのような状況、場面であれば、マスクの着用が必要ないと思われるかについて、上記の考え方に沿う意見が多かったが、「いつでも必要である」という意見もあった。

3) マスクの着用を緩和することによって、マスクをしたい人が着用しづらくなる懸念への対応も必要。

5 何がどう変化すれば、日常が戻ったと感じられるか

1) マスクの着用から解放され、旅行の自由が回復し、飲食店などでの感染対策が軽減されることが、日常の回復を感じる項目として挙げられた。

2) その他、行動制限、新型コロナウイルスの感染症法上の分類、働き方、家庭、消費行動について、幅広く言及があった。

エグゼクティブ

サマリー

要約

重要な市民的論点と
インプリケーション

・2022年6月4日土曜日、新型コロナウイルス感染症をめぐる行政の対応について、市民的論点を素描するため、公募により参加した市民によるオンライン対話を実施した。

・これまでの市民対話は、一般論として次のような点に困難が認められ、政策過程で利用することが難しかった。

- ▼ 政策に反映できるタイミングで結果を得られるスピード感
- ▼ 目的、手法、解釈の明確さと、参照情報としての正当性、利便性
- ▼ 実施コストなど

・本レポートに掲載した対話は、内容としても、タイミングとしても、政策過程で利用可能な参照情報を生み出すために、スピードと精度、実施コストに配慮してデザインした。

・本レポートで用いた手法は、質問紙によるアンケート調査のような定量性はないが、互いの考えや思いを共有し、自ら立てた問いについて調査を行うことで、短い時間、小さな負担で、より熟慮された意見を捕まえ、問題を素描できる利点がある。

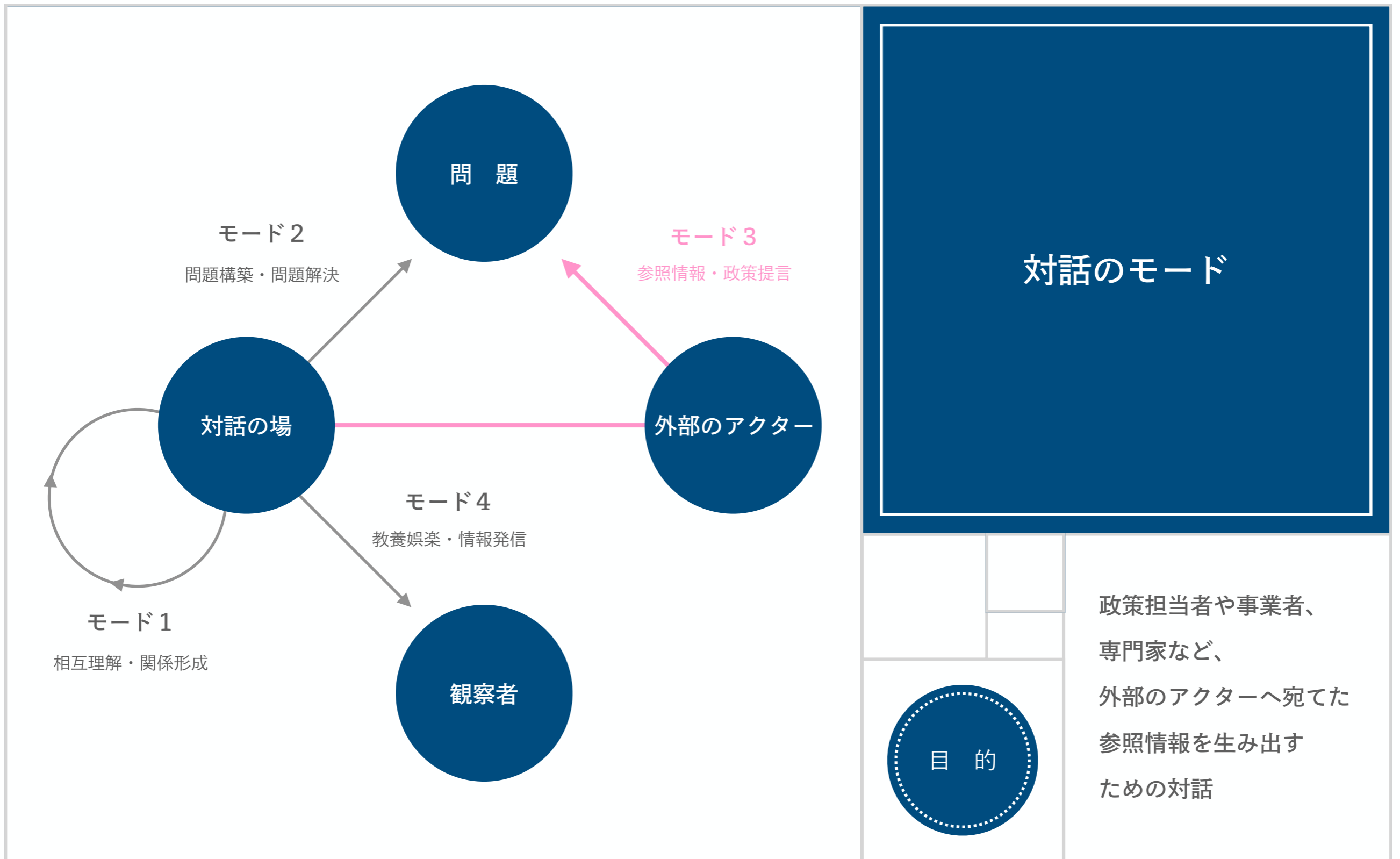
・個々の意見について見ると、参照すべき点がある場合も、ない場合もあるため、目に付いた意見だけを恣意的に取り上げること（チェリーピッキング）は避けるべきである。

・参加者の意見を単純に足し合わせただけでは得られない、対話全体を通じて構築される論点の構造に注目し、政策形成や調査研究のための参照情報としてご利用いただけると幸甚である。

スケッチ・ダイアログ



市民の対話を通じて
問題を素描し、
問題解決に役立つ
参照情報を生み出す



対話には様々な目的に応じた手法があるが、ここでは対話の場に視座を置き、次の4つのモードとして整理した。本レポートに記載された対話は、主としてモード3の対話を意図している。

- モード1 相互理解・関係形成 対話によって生まれた成果を、対話の場で分かち合い、参加者間の相互理解、創造的な関係を形成することを目的とする。
- モード2 問題構築・問題解決 対話によって、問題を構築し、解決に必要なリソースを持ち寄って、自律的な問題の解決を目指す。
- モード3 参照情報・政策提言 対話によって生まれた成果を、政策担当者、意思決定者など、問題解決に必要なリソースを有する者へ届け、対話の場の外側で問題の解決を図る。
- モード4 教養娯楽・情報発信 対話の場を第三者に対して開き、観察者に教養、娯楽を提供し、情報を共有することを目的とする。

1 自己紹介

2 テーマに関する事前評価（4段階評価（評価できる、どちらかという評価できる、どちらかという評価できない、評価できない）と理由）

3 チャットワークと対話

テーマに関する以下の点をチャットボックスに3つ記載した後、順番に発表し、全体で対話する。

3-1 よいと思う点

3-2 よくないと思う点

3-3 よくわからない点（疑問点）

4 インターネット調査

一人1つの調査項目を選定し、30分間、個別にインターネット調査を実施する。

5 調査結果の共有と対話

6 テーマに関する事後評価（方法は、事前評価と同様。）

7 チャットワークと対話（方法は、3のチャットワークと同様。）

新型コロナウイルス感染症をめぐる政策や生活のあり方について、何がどう変化すれば、日常に戻ったと感じられますか？

*詳細は、付属資料参照。

対話のプログラム

デザイン

聴くことと話すことを丁寧に切り分け、それを積み重ねることで協働的に問題の構築を図る

対話は、オンライン会議システムZoomを使ったバーチャル空間で実施した。バーチャル空間は、フィジカル空間と異なる特質を持ち、フィジカル空間での対話手法をそのまま使い回すことができないが、オペレーションやファシリテーションを工夫することで、フィジカル空間の不完全な模倣を超えた、創造的な対話を生み出すことができる。

・イベントの概要

日時 2022年6月4日 土曜日 13時30分～16時30分

主催 科学コミュニケーション研究所（さくり）

実施者 田原敬一郎（さくり）、宇都幸那（さくり）、白根純人（さくり）

目的 対話を通じて、新型コロナウイルス感染症をめぐる行政の対応への期待、懸念、疑問点を明らかにする。

参加方法 Zoomミーティング 謝金 3600円（税込）

参加者 一般市民（公募） 6名

参加者の属性

年代	居住地	職業	性別
20代	宮城県	大学生	男性
30代	大阪	エンジニア	男性
30代	東京都	フリーター	男性
30代	高知県	パート	女性
50代	東京都	Webデザイナー／ 会社員	女性
50代	神奈川県	自営業	女性

新型コロナウイルス

感染症をめぐる

行政の対応について



イベントの概要

新型コロナウイルス感染症をめぐる行政の対応についてのスケッチ

1 新型コロナウイルス感染症をめぐる行政の対応への市民の評価

- 1) 今後の見通しについて不安はあるものの、これまでの取り組みを幅広く振り返り、ポジティブに評価している。
- 2) 対話前はネガティブに評価していた2名は、対話とインターネット調査を通じて、知識を共有し、理解を深めることで、ポジティブな評価へと変化した。

2 新型コロナウイルス感染症をめぐる行政の対応についての市民的論点

- 1) 今後の見通し 日本はいつごろエンデミックに移行するのか、さまざまな意見がありよくわからないとの意見が多い。
- 2) 情報共有 日常的な感染状況や取り組みについての情報共有に対する評価は高い。
- 3) ワクチン ワクチン接種に関するロジスティクスに対する評価は高い。その反面、ワクチンに関する理解は進んでおらず、3回目、4回目の接種について懐疑的な声もある。
- 4) 経済支援 助成金などの経済支援については一定の評価がなされているものの、支援対象に対する納得感が持てない者もいる。
- 5) アルコール消毒 アルコールに対するアレルギーを持つ者に対する社会の理解が進んでいないとの声がある。
- 6) 対応のスピード、感染対策、マスク、行動制限、水際対策、感染者の追跡システム、検査、感染者対応、医療従事者、経済対策、IT化・オンライン化、テレワーク、差別・偏見、変異種、後遺症、新たな感染症について、いくつかの意見があった。
- 7) 挙げられた論点の中には、すでに解決された問題、改善された項目も少なからず含まれており、知識が更新されていないことが伺える。問題が提起される際のセンセーショナルな報道と比較して、それが解決されたり、改善されたりした場合の報道は少ないことも原因の一つと考えられる。

3 インターネット上の情報

「新型コロナウイルスのエンデミックへの移行」、「移動自粛の緩和や、旅行業者に支援する政策」、「感染による後遺症への支援」、「ワクチンの副反応、後遺症」、「政府が配布した布マスクのメリット、デメリット」、「コロナに便乗した詐欺や悪徳商法」について、参加者が30分程度インターネット調査を実施したところ、公表されている情報について、概ね妥当な調査結果を得ることができた。これらの情報は、市民がアクセス可能な状態にあると考えられる。

4 マスクの着用に関する市民の意見

- 1) マスク着用の考え方（第85回(令和4年5月25日)新型コロナウイルス感染症対策アドバイザリーボード）について、6名のうち4名は知っていたが、2名は知らなかった。
- 2) どのような状況、場面であれば、マスクの着用が必要ないと思われるかについて、上記の考え方に沿う意見が多かったが、「いつでも必要である」という意見もあった。

5 何がどう変化すれば、日常が戻ったと感じられるか

- 1) マスクの着用から解放され、旅行の自由が回復し、飲食店などでの感染対策が軽減されることが、日常の回復を感じる項目として挙げられた。
- 2) その他、行動制限、新型コロナウイルスの感染症法上の分類、働き方、家庭、消費行動について、幅広く言及があった。

1 新型コロナウイルス感染症をめぐる行政の対応への評価

	対話前の評価	対話後の評価
1 評価できる	2 人	3 人
2 どちらかという評価できる	2 人	3 人
3 どちらかという評価できない	2 人	0 人
4 評価できない	0 人	0 人
対話前後の変化		2 → 1 1人 3 → 2 2人
ポジティブな評価の理由	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナも常態化してきており、周りの人がコロナに罹るのもある程度受け入れられるようになってきた。これ以上打つ手はないのではないかなと思うから。 ・100年に1度のパンデミックで世界中誰も経験した事がない事で手探りの中、精一杯やったと思います。 ・コロナ感染者数が減少したり、行政が頑張っていたと思います ・ソーシャルディスタンスを保ち、アルコール消毒、飲食店の利用制限など、日々の努力でどうにか感染防止ができたと思います。毎日の広報発信で、私たちも状況を把握できました。いまは、コロナで陽性者が出てあわてず落ち着いていられます。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今日のお話を聞いたり、自分で調査していく中で思っている以上に対策が進んでいると感じた。 ・コロナ後の海外旅行先として、日本は高い評価を受けているなか、各地方公共団体の取組を注目しています。特にGo Toトラベル活用もしています。今後も期待しています。 ・未曾有の未知のウイルスに対して、できる限りの事はやったと思います。 ・お話を聞いて、また自分で調べた上で対策は進んでいると感じた。あとはいかにコロナと共生していくのが鍵になるのでは。 ・対話と調査をして内容が変わりました。国は、全国民に対して公平に対応しています。実質には、公平に行き渡るには無理があります。全国規模でコロナ感染に対して取り組んだことは高評価します。（問題を抱えている人がほんとに解決を求めて行動する必要があると感じました） ・初動は手探りの中対応していたなとは思いますが。コロナが2年続いている現在では、これから経済をどう立て直すかやはり不安もあります。
ネガティブな評価の理由	<ul style="list-style-type: none"> ・あまり知識がないため。自分で気をつけて対策していたし、あまり自分の生活の中で助けられる制度がなかったです。 ・ワクチンの安全性などまだまだ不透明な部分が多く、専門家でもないのに誤った情報を流す人たちもいるので、そういう人たちは厳重に処罰してほしい。（コロナはただの風邪だ、とマスクをつけずに、渋谷の駅前などでどんちゃん騒ぎをしていた人など） 	

2 新型コロナウイルス感染症をめぐる行政の対応についての市民的論点 1 / 4

論 点	よいと思う点	よくないと思う点	よくわからない点（疑問点）
対応のスピード	<ul style="list-style-type: none"> ・海外は分からないが、日本は少なくとも対応が早く対策がしっかりとしていると思う。 		
今後の見通し			<ul style="list-style-type: none"> ・常態化までどのくらいかかるのか（インフルエンザのような扱いになるのはいつか）。 ・そろそろパンデミックからエンデミックを宣言しないのだろうか。 ・ワクチンができるくらいなのに、まだコロナは鎮静化しないのか ・人によってコロナに対する意見がばらつきがありすぎてよくわからなくなってきた。
情報共有	<ul style="list-style-type: none"> ・毎日コロナ情報が発信されている ・新型コロナウイルス感染症に関するWebサイトでは、自治体・事業の取組を掲載しています。安心感があります。事前の感染対策と感染発生時の具体的な対応も明確しています。 ・テレビや新聞も、レポートの発信を強化しています。 	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ下で情勢を悪用しようとする人たちを野放しにしているところがある気がする（陰謀論を提唱して、政府を攻撃するなど）。 	
感染対策		<ul style="list-style-type: none"> ・「3密」を避けてくださいと言われていますが、密閉空間（換気の悪い密閉空間）に人がいっぱいいます。例えば、電車の中など。 	<ul style="list-style-type: none"> ・感染防止のチェックリストが細かすぎて分かりにくい。
マスク	<ul style="list-style-type: none"> ・流行り始めにマスクを徹底させた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・布マスクの配布。 	<ul style="list-style-type: none"> ・布マスクの所在。
アルコール消毒		<ul style="list-style-type: none"> ・アルコールは必要なのは十分理解するば、アルコールがダメな人もいる事を周知して欲しい（北海道新聞で特集が組まれました）。 	
行動制限	<ul style="list-style-type: none"> ・渡航制限など、ある程度の水際対策ができ、感染者の爆増が防げていた点。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校、部活の休校基準の曖昧さ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校の休校基準。 ・明らかな風邪の症状であっても、外出を控える必要があるのか。
水際対策		<ul style="list-style-type: none"> ・水際対策で入国できなくて離れ離れになった人たちがいる（令和鎖国）。 	
感染者の追跡システム		<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染に関する感染者追跡システムがうまく動いていない。 	

2 新型コロナウイルス感染症をめぐる行政の対応についての市民的論点 2 / 4

論 点	よいと思う点	よくないと思う点	よくわからない点（疑問点）
検査	<ul style="list-style-type: none"> ・無料でPCR検査が受けられる。 ・無料でPCR検査が受けられる点。 		
ワクチン	<ul style="list-style-type: none"> ・地域のデパートが閉店になったが、地域の声で5, 6階を閉鎖し縮小して再開店した。直後に5, 6階が大規模集会場として国内でもかなり早くに発表になり、その後全国でショッピングモールが接種会場になった。市民の誰もが知ってるデパートで、駅からも近く、駐車場も充実している。 ・コールセンターはすぐにつながる。 ・LINEからも接種予約ができる ・思ったよりワクチンが早期にできた。 ・無料でワクチン接種が受けられる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ワクチンでの後遺症に対する補償がない。 ・ワクチンの知識不足。 ・3回目のワクチン難民（自分自身は、アレルギーがあるが、対応できる病院が見つからない。） 	<ul style="list-style-type: none"> ・ワクチン3回目接種は進んでいないが、4回目は必要なのだろうか。
感染者対応		<ul style="list-style-type: none"> ・感染者が増えたときに宿泊施設が足りないなどで亡くなった方がいる。 	
医療従事者		<ul style="list-style-type: none"> ・医療従事者への負担が大きいこと。 ・医療従事者をサポートする体制が整っていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・医療従事者にはどの程度の支援があるのか。
経済対策		<ul style="list-style-type: none"> ・景気の低迷。活性化がなかなか進まない（Go Toキャンペーン中止、見合わせ、経営破綻など）。 	<ul style="list-style-type: none"> ・経済がこのまま低迷化したら、この先日本はどうなるんだろうかわからない。
経済支援	<ul style="list-style-type: none"> ・飲食店など、各種持続化助成金が出る。 ・2度一律10万の給付を出さなかった点（1度目も不要だったが、1度で留めたこと）。 ・給付金などの補償が出た。 ・各種、給付金があった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・一律10万円の給付。 ・非課税の外国人にも給付金は出てるのかと思うとモヤモヤする（困っている日本人をまず支援すべき）。 ・給付金の支給先の不明。 	<ul style="list-style-type: none"> ・飲食店、10万円支給の補助金支給の根拠。

2 新型コロナウイルス感染症をめぐる行政の対応についての市民的論点 3 / 4

論 点	よいと思う点	よくないと思う点	よくわからない点（疑問点）
IT化・オンライン化	<ul style="list-style-type: none"> ・オンラインでの学習や手続きを行政も取り入れ始めた。（時代のせいもある？） 	<ul style="list-style-type: none"> ・IT化が急激に進み、スマホ、パソコンが使えない人で困った人がいる。 ・補助金の申請も電子化されて、各省庁がバラバラのシステムで私でもわかりにくい。 	
テレワーク	<ul style="list-style-type: none"> ・感染防止のため会社に出勤しないで在宅勤務ができる。 		
差別・偏見		<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症に関連した差別や偏見は、その被害を受けたの対応。（学校で、友達が話しかけてこないなど） 	
変異株			<ul style="list-style-type: none"> ・変異株について何か特別に対策することはありますか。
後遺症			<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ後遺症の人への公的援助。 ・新型コロナ感染者の後遺症対策について。
新たな感染症			<ul style="list-style-type: none"> ・新たなウイルスや感染症などの対策。

何がどう変化すれば、日常が戻ったと感じられるか

・マスク

マスクを外して出歩ける。
皆が当たり前前にマスクをしなくなる。
マスクの常用がなくなる。
マスク警察がいなくなった時。
密ではない屋外などで、マスクを着けても外していても周りがコロナと関連づけて評価しない風潮になる。（マスクはコロナ関係なくしていただきたいため）

・旅行

旅行でストレスや疲れが解消される。
海外旅行を自由にできるようになる。
Gotoトラベルなどの旅行者支援がなくなる。（支援をしている間は非常時。）
気軽に旅行に行ける。県外の友人と会えるようになる。

・飲食店などでの感染対策

仕切り板がなくなる。
飲食店などで検温などをしなくて良くなる。
病院以外の場所でアルコール消毒液が無くなった時。（アルコールで深刻なアレルギー反応が出るため。）

・行動制限

外出の自粛や日常生活への制約がなくなる。
集団で気楽にスポーツや飲食ができること

・新型コロナウイルスの感染症法上の分類

2類から5類への引き下げ（エンデミック宣言が出る）。
インフルエンザなどのように常態化したり、予防接種が実施される。

・働き方

全日出勤が推奨される。

・家庭

家族とのコミュニケーションが良くなる。（コロナをめぐって家族と仲が悪くなったこともあった。）

・消費行動

コンビニやスーパーなどでの物の買い占めがなくなる。

インターネット調査の結果（概要）

調査項目	調査結果の概要	出典・参考情報	評価
新型コロナウイルスのエンデミックへの移行について	国内外の状況、エンデミックへ移行するためのシナリオについて明らかにした。	日本貿易振興機構HP、日本経済団体連合会HP、BussFeedNews	公的機関のHPや専門家の意見を掲載したニュースサイトなどを参照し、概ね妥当な結果が得られた。
移動自粛の緩和や、旅行業者に支援する政策について	県民割・地方自治体等が実施する観光復興支援策、大阪いらっしやいキャンペーン2022について明らかにした。	大阪府HP	公的機関のHPを参照し、概ね妥当な結果が得られた。
感染による後遺症への支援について	後遺症の症例、相談窓口、公的保険、民間の保険について明らかにした。	東京都福祉保健局HP、厚生労働省HP、NHKのHP、神奈川新聞HP、東京新聞HP、保険マンモスHPなど	多様なHPを参照し、概ね妥当な結果が得られた。
ワクチンの副反応、後遺症について	副反応の症例、ワクチンが感染による後遺症リスクを下げるという報告、ワクチン後遺症に関するメディアの報道について明らかにした。	厚生労働省HP、毎日新聞HP、河北新報HP、医療機関HP	公的機関やメディア、医療機関のHPを参照し、概ね妥当な結果が得られた。
政府が配布した布マスクのメリット、デメリットについて	メリット、デメリットとして、SNS上で流通している情報を明らかにした。	Twitter（複数）	SNSを参照し、一般に言われていることを外観できたが、結果の妥当性については不明。
コロナに便乗した詐欺や悪徳商法について	給付金の不正受給、ワクチン接種に乗じた金銭や個人情報の詐取、治療薬や検査キットの販売を謳う悪徳商法など、さまざまな事例を明らかにした。	朝日新聞デジタル、消費者庁HP、厚生労働省HP、国民生活センターHP	マスメディアや公的機関のHPを参照し、概ね妥当な結果が得られた。

マスクの着用に関する事後アンケート

Q. マスクの着用について、政府から考え方が示されましたが、ご存じでしたか？

<https://www.mhlw.go.jp/content/10900000/000942851.pdf>

- ・知っていた 4人
- ・知らなかった 2人

Q. どのような状況、場面であれば、マスクの着用が必要ないと思われますか？

- ・徒歩中、店舗内で混みあってない時
- ・屋外や密ではない時
- ・家に一人にいる時、長年連れ添っている家族やパートナーなどという時。
- ・町で歩いているところ
- ・屋外で人が密集していなくて会話をしない場合。室内でも2m以内に他人がいなくてほとんど会話しない時。
- ・（いつでも）必要であると思う

資料

対話型市民調査

新型コロナウイルス感染症をめぐる
行政の対応について

科学コミュニケーション研究所

さくり

さくり

2022年6月4日

ファシリテーション

田原敬一郎（さくり）

オペレーション

宇都 幸那（さくり）

ディレクション

白根 純人（さくり）

スタッフ

さくり

- ・ イベント名 対話型市民調査
- ・ テーマ 新型コロナウイルス感染症をめぐる行政の対応について
- ・ 主催 科学コミュニケーション研究所 さくり
- ・ 目的 対話を通じて、テーマに関する問題の構造を明らかにする。
- ・ 方法 チャットを用いながら、評価できるところ、できないところ、疑問点を話し合い、テーマを一つずつ選んでインターネット調査を行う。
- ・ 参加者 一般市民（知識、経験不問） 8名程度（公募、紹介）
- ・ 参加方法 Zoomミーティング
- ・ 謝金 3600円（税込） 翌月10日指定口座に振込
- ・ 調査結果の利用方法
 - 1 調査結果は、参加者個人が特定できる情報を一切除外して報告書としてまとめ、一般に公開します。
 - 2 映像、音声、文字起こしなどの記録は、科学コミュニケーション研究所の関係者（守秘義務を負う者）を除いて開示しません。
 - 3 参加者は、調査の内容、とくに他の参加者の個人情報に関わることについて、口頭、SNSを含め、第三者へ開示することはできません。（イベントの概要、参加した事実は、除く。）

対話の概要

さくり

- ・ スタッフの紹介
- ・ 調査の概要
- ・ 全体の流れ
- ・ Zoomの操作方法
- ・ テクニカル・サポート
- ・ 注意事項
- ・ 対話のルール
- ・ 自己紹介
- ・ 情報提供
- ・ 対話

全体の流れ

さくり

ユーザーが操作する機能

- 1 オーディオ
- 2 ビデオ
- 3 チャット

その他の操作は、画面に表示されるメッセージに従ってください。

Zoomの操作方法



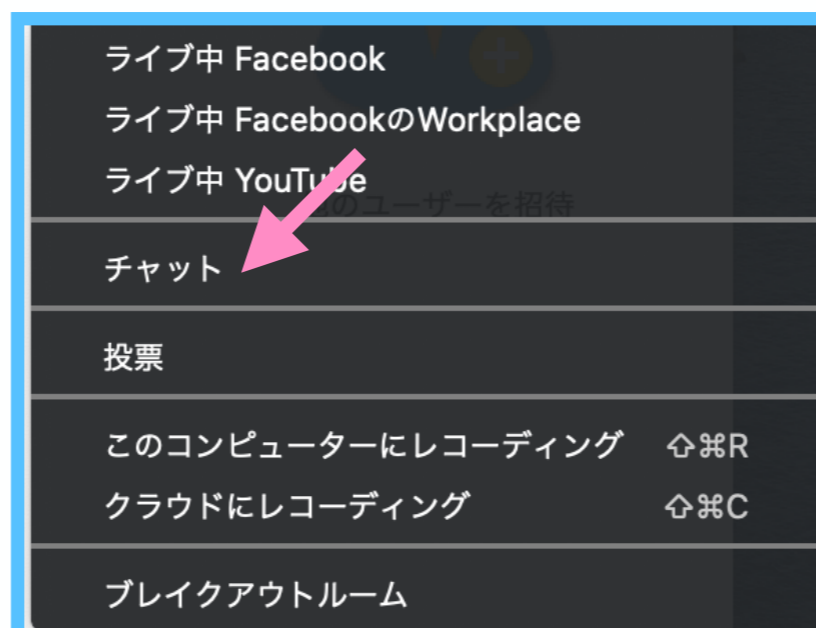
さくり

パソコンの場合 「チャット」の開き方

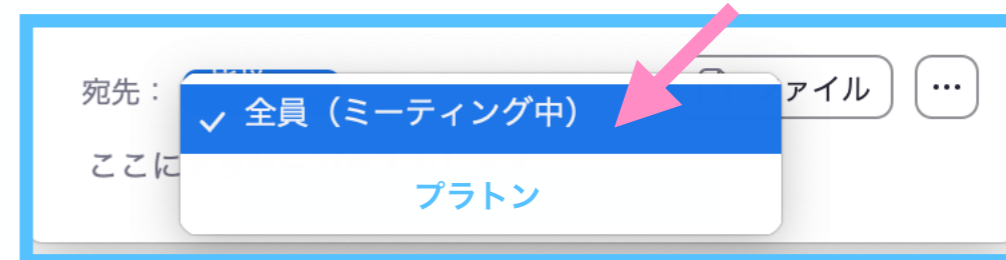
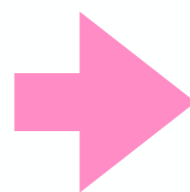
- 1 操作パネルに「チャット」メニューが表示されている例



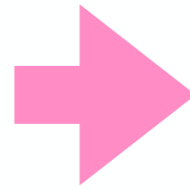
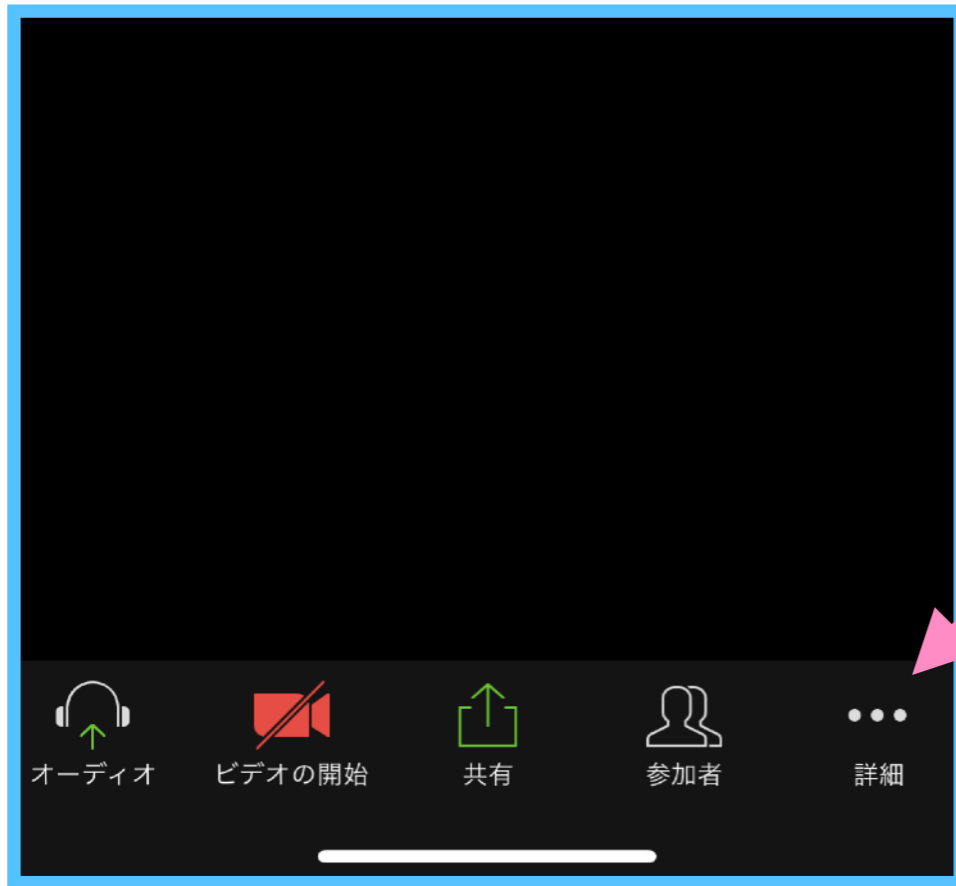
- 2 操作パネルに「チャット」メニューが表示されていない例



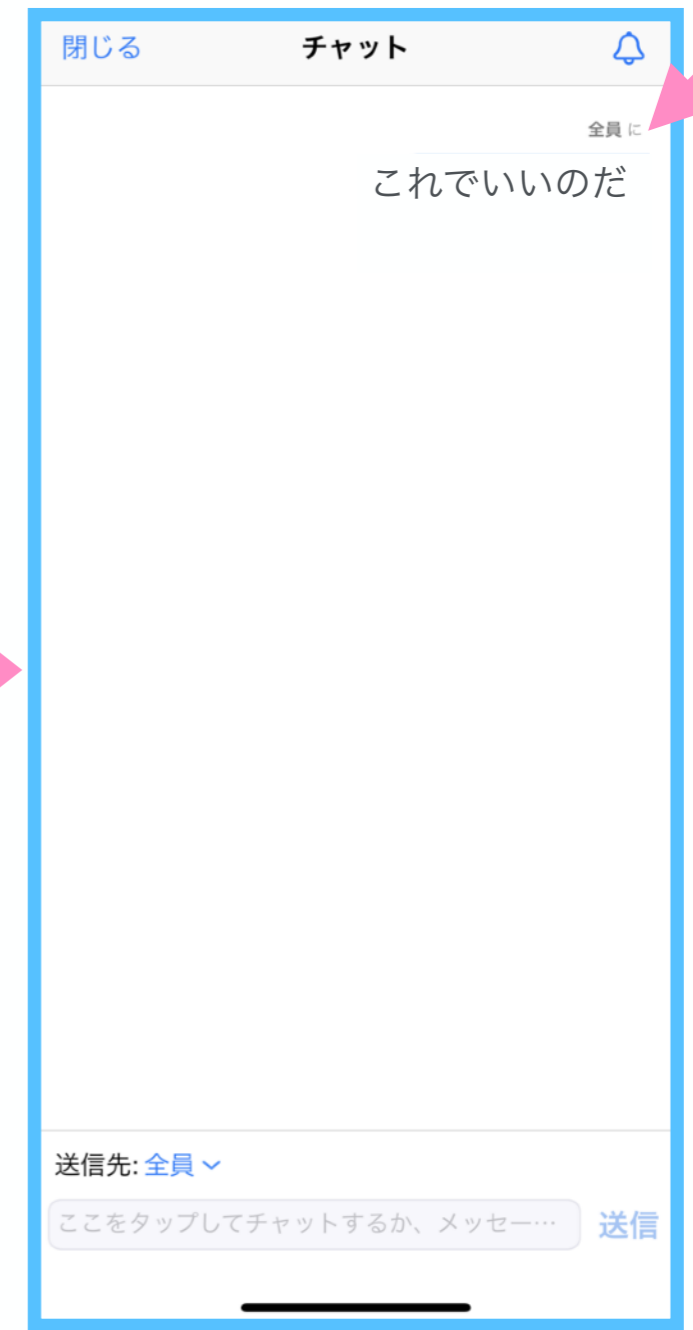
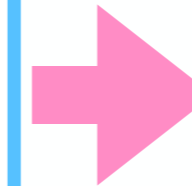
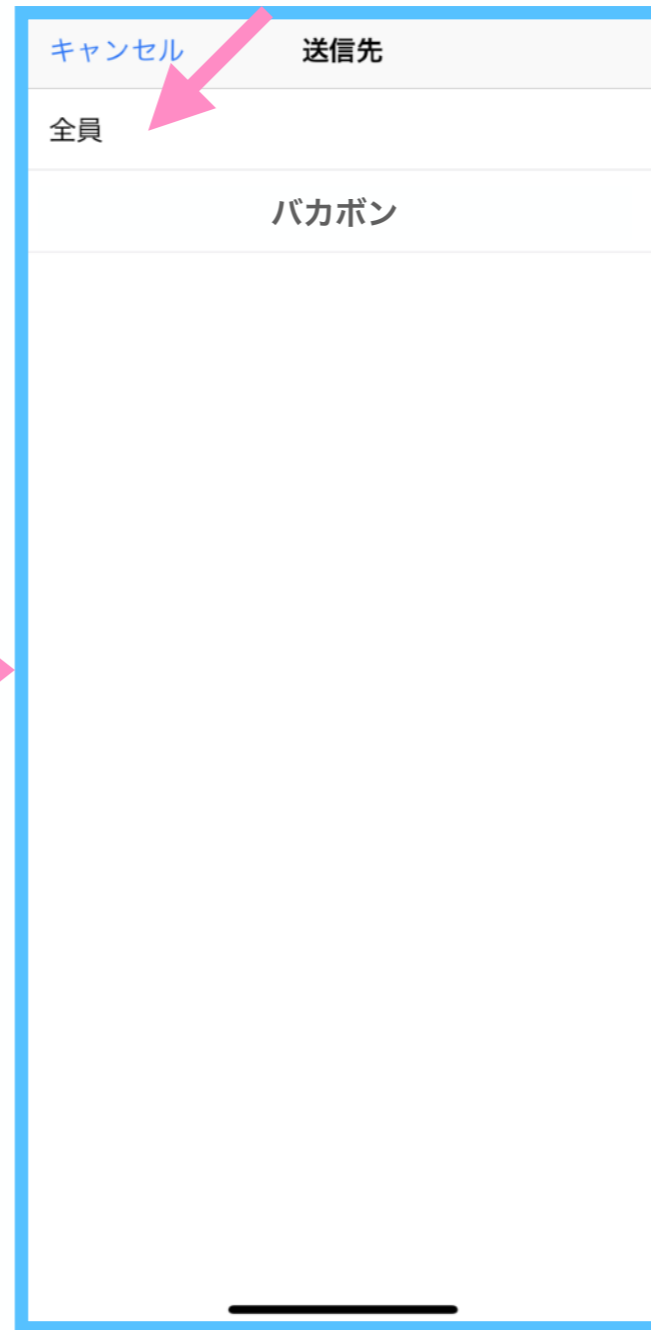
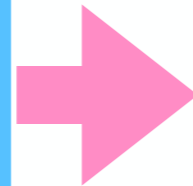
パソコンの場合 全員宛メッセージの送り方



スマートフォンの場合 「チャットの開き方」



スマートフォンの場合 全員宛メッセージの送り方



Zoomの技術的な支援が必要な場合は、

さくりZoomサポート

zoom@scri.co.jp

までご連絡ください。

システムトラブルにより、Zoomの回線が切断されてしまった場合、画面がフリーズしてしまった場合は、ログインし直してください。

万が一システムが復旧しない場合は、次のサイトで、対応方法についてご連絡いたします。

さくりホームページ

www.scri.co.jp

テクニカルサポート

さくり

- ・マイクやカメラを通じて、プライベートな情報が共有されないようご注意ください。
- ・飲食やキーボードに入力、来客など、止むを得ず雑音が生じる場合は、マイクをミュートにしてください。
- ・このワークショップの映像、音声、チャットの記録は、主催者によって記録されます。
- ・チャットは一度送信すると削除できません。送信前に内容をよくご確認ください。
- ・ワークショップの進行、内容に関することは、ファシリテーターに質問するか、チャットで質問してください。

注意事項

さくり

対話のルール

- ・一人ひとりの考え、想いを大切にする。
- ・おたがいの違いや多様性から学び合う。
- ・全員が話せるチャンスをつくる。
- ・いつも考えていることにとどまらず、
その場で感じたこと、
話し合いの中で生まれたアイデアを大切にする。
- ・フラットな関係で話し合うために、
おたがいを「さん」づけで呼ぶ。

さくり

自己紹介

ファシリテーターに指名されたら、

- 1 おなまえ
- 2 お住まい、おしごと（話せる範囲で）
- 3 新型コロナウイルスの感染者数が減少傾向にありますが、日常が戻ってきたなと感じる場面はありますか。それはどんな場面ですか。

を30秒以内にお話してください。

お話が終わったら、**親しみを込めて拍手**しましょう。

さくり

新型コロナウイルス感染症をめぐる行政の対応について、
現在の知識と直感を頼りに、次の選択肢の中からご自身のお考えに近いものを選び、チャットボックスに番号とそれを選んだ理由を入力して下さい。

- 1 評価できる
- 2 どちらかという人评价できる
- 3 どちらかという人评价できない
- 4 評価できない

記入例 1 だから。

アンケート



記入時間
3 min

新型コロナウイルス感染症をめぐる行政の対応について、

よいと思う点はどこですか？

あなた自身のことでも、周りで言われていることでも構いません。

3つ以上チャットボックスに記入してください。

ワーク 1

よいと思う点はどこですか？



記入時間
3 min

チャットボックスでの改行 Windows : Shift + Enter / Mac : Control + Return

ワーク 2

よくないと思う点はどこですか？

新型コロナウイルス感染症をめぐる行政の対応について、

よくないと思う点はどこですか？

あなた自身のことでも、周りで言われていることでも構いません。

3つ以上チャットボックスに記入してください。

さくり

記入時間
3 min

ワーク 3

よくわからない点（疑問点）はどこですか？

新型コロナウイルス感染症をめぐる行政の対応について、

よくわからない点（疑問点）はどこですか？

あなた自身のことでも、周りで言われていることでも構いません。

3つ以上チャットボックスに記入してください。

さくり

記入時間
3 min

これからインターネットを使った調査を行います。

いまの話し合いを踏まえて、

自分が調べたいと思った疑問点を、ひとつだけ、

チャットボックスに記入してください。

(注意)

- ・ 調査時間は、休憩を含めて30分間です。
- ・ 3回程度、検索してまとめられる分量が目安です。
- ・ 検索キーワードが思い浮かぶくらい具体的に
お書きください。

ワーク4

調査テーマの選択

さくり

記入時間
3 min

チャットボックスでの改行 Windows : Shift + Enter / Mac : Control + Return

これから、ご自身が選んだ調査テーマについて、インターネットで調査します。

- ・調査結果のまとめ

パソコンの方 Wordなどのワープロソフト

スマホ・タブレットの方 メモ帳などの文字が入力できる

アプリ、またはお手元の紙

※調査後、おひとりずつ発表いただき、イベント終了後に、ファイルや手書きのメモ（写真）をお送りいただきます。

- ・記載の方法

箇条書きで良い。コピペでなく、自分の言葉で。

情報源（URLやサイト名、文書名など）をできるだけ書く。

ワーク5

インターネット調査

調査時間
30 min

さくり

ワーク6

調査結果の共有

調査したことを、順番に発表します。

ひとりの発表が終わったら、ねぎらいを込めて拍手
しましょう。

さくり

一人当たりの
発表時間
2 min

新型コロナウイルス感染症をめぐる行政の対応について、対話と調査の結果を踏まえて、次の選択肢の中からご自身のお考えに近いものを選び、チャットボックスに番号とそれを選んだ理由を入力して下さい。

- 1 評価できる
- 2 どちらかという人评价できる
- 3 どちらかという人评价できない
- 4 評価できない

記入例 1 だから。

アンケート



記入時間
3 min

チャットボックスでの改行 Windows : Shift + Enter / Mac : Control + Return

ワーク7

日常の回復

新型コロナウイルス感染症をめぐる政策や生活のあり方について、何がどう変化すれば、日常に戻ったと感じられますか？

あなた自身のことでも、周りで言われていることでも構いません。

3つ以上チャットボックスに記入してください。

さくり

記入時間
3 min

事務連絡

- 1 インターネット調査の結果は、**本日中に**、メールで提出してください。

宛先 さくり 対話ラボラトリ

zoom@scri.co.jp

- 2 お送りするURLを開いて、本日の調査に関する**アンケート**にご回答ください。

- 3 本日初めて参加された方は、あわせて、**振込先の情報**を登録してください。



さくり

つぎの一步を **ごいっしょに**。

ありがとうございました

適宜、ご退出ください



手を振ってお別れ